

「新指定・新登録・新選定」答申物件

《特別史跡名勝天然記念物の新指定》

【特別史跡】 1件

「天平12年（740）に遷都し以後3年3ヶ月營まれた宮都。後に山城国分寺となった」

1 恭仁宮跡（山城国分寺跡）【京都府木津川市】

天平12年（740）に聖武天皇が遷都を宣言し、以後3年3ヶ月營まれた宮都。平城還都後に大極殿が山城国分寺に施入された。大極殿基壇や国分寺の塔基壇が残り、発掘調査により朝堂院や2つの内裏相当の区画等が見つかった。国分寺建立の詔等、重要な法令が出された宮跡であり、古代宮都の変遷やあり方を伝えるきわめて重要な遺跡である。



提供：木津川市

《史跡名勝天然記念物の新指定》

【史跡】 6件

「北東北における中世後半期の政治的、軍事的情勢とその変化を知る上で重要な境目の城」

1 出羽金沢城跡【秋田県横手市】

出羽国 北部の横手盆地内における大規模な群郭式構造の山城。室町期は南部氏、戦国期は国人領主金沢氏の本拠の城で、戦国大名小野寺氏・六郷氏勢力における境目の城。北東北における中世後半期の政治的、軍事的な情勢とその変化を知る上で重要。



提供：横手市

「美濃国守護土岐氏の拠点城郭。戦国時代における守護大名の本拠地の構造を知る上で重要」

2 大桑城跡【岐阜県山県市】

16世紀前半から中頃に機能した政治的空間と居住空間を備えた美濃国守護土岐氏の拠点城郭。戦国時代における守護大名の本拠地の構造を知るだけでなく、美濃国騒乱の舞台となった城でもあり、周辺諸国の諸勢力の動向も含めた、当時の社会的、政治的動向を知る上でも重要。



提供：山県市

「古代国家の幹線道路網のひとつ。古代官道の路線選定や構築法を知る上で重要」

3 因幡国山陰道跡【鳥取県鳥取市】

平野部から丘陵部にいたる、全長3kmの古代官道の実態を明らかにすることことができた全国でも稀有な遺跡。多様な作道工法や山間部における路線選定の在り方等、古代の土木技術だけでなく交通の実態を知る上でも重要。



提供：鳥取県埋蔵文化財センター

「天正年間に繰り広げられた毛利氏・織田（羽柴）氏の攻防戦の最前線にあった山城跡」

4 羽衣石城跡 附 十万寺城跡 番城城跡【鳥取県東伯郡湯梨浜町】

戦国期伯耆国（羽衣）の国人領主・南条氏の拠点で、天正年間に繰り広げられた毛利氏・織田（羽柴）氏の攻防戦の最前線にあった山城跡。4つの独立した曲輪群で構成され、その南北に十万寺城・番城城の出城が展開する。戦国期における山陰地方の政治状況の変化を知る上で重要。



提供：湯梨浜町

「8世紀中頃創建の古代寺院跡。国分寺造営による地方の造寺の在り方を知る上で重要」

5 野中廃寺跡【高知県南国市】

四国で唯一、伽藍の全貌が明らかになった寺院であり、金堂の規模も土佐国分寺に匹敵し、かつ精緻な掘込地業を行う本格的な伽藍。国分寺造営が郡司層の造寺活動を活発化させたことを示す典型的な事例であり、古代における寺院造営を考える上で重要。



提供：南国市

「琉球王国の影響を受けていた沖永良部島に見られる、前庭を持つ大型石造り掘込墓」

6 沖永良部島古墓群【鹿児島県大島郡和泊町・知名町】

世之主の墓

新城花窪ニヤートウ墓

屋者ガジマル墓

アーニマガヤトゥール墓

奄美群島に見られる、岩壁を横方向に掘り込む形式の遺骨を納める墓所のうち、琉球王国の影響を受け、削り出した岩壁や石積みの壁を設けた前庭を持つ大型石造り掘込墓。奄美と沖縄、さらに九州南部等との文化交流を示す貴重な遺跡として重要。



世之主の墓 提供：和泊町



屋者ガジマル墓 提供：知名町

【名勝】 1件

「離れの建築とともに整備された築山池泉と室内の観賞に特徴ある大正時代の住宅庭園」

1 静川園【青森県北津軽郡中泊町】

津軽半島中央部にある近代住宅庭園で、大きな築山を地割の中心として池泉を巡らせた逍遙本位の庭と、離れ「詩夢庵」とこれを取り巻く観賞本位の庭などから成り、文化人との交流で育まれた趣向に基づき近代地主が自ら差配して造営した事例として優れている。



提供：中泊町

【天然記念物】 1件

「世界的に有名なユリ属の園芸品種の原種のひとつであるカノコユリの国内最大規模の生育地」

1 甑島片野浦のカノコユリ群落【鹿児島県薩摩川内市】

カノコユリは、シーボルトが持ち帰り紹介したことで西洋において高く評価されたユリ属の植物で、オリエンタルハイブリッドで有名な「カサブランカ」など多くの園芸品種の原種である。下甑島西海岸の片野浦には、土砂崩落と強風で維持されている自然草原が成立しており、カノコユリの国内最大規模の生育地である。



提供：薩摩川内市

《登録記念物の新登録》

【遺跡関係】 1件

「久米島東部の海域に所在する14世紀末～15世紀初頭の貿易陶磁器散布地」

1 東奥武沖遺跡【沖縄県島尻郡久米島町】

久米島東部の東奥武（オーハ島）の海域に所在する14世紀末～15世紀初頭の陶磁器散布地。東奥武（オーハ島）の南東方向に伸びる浅瀬を起点に分布しており、海難事故によって形成されたと想定される。当該期に最盛期を迎える琉球の明国への朝貢貿易の様相を知るうえで重要。



撮影：亀島慎吾

【名勝地関係】 5件

「昭和15年（1940）に作庭家の重森三玲によって造られた枯山水の住宅庭園」

1 斧原氏庭園【兵庫県西宮市】

昭和15年に作庭家の重森三玲によって造られた枯山水の住宅庭園。奥の築山に多くの石組を施し、その山裾の前を左から右へ直線的にのびる白砂の曲水が、逆S字を描きながら、横向に長く突き出た2つの出島を大きく回り込んで手前に至る。



提供：西宮市

「昭和40年（1965）に作庭家の重森三玲によって造られた枯山水の住宅庭園」

2 清原氏庭園【兵庫県芦屋市】

昭和40年に作庭家の重森三玲によって造られた枯山水の住宅庭園。周囲を建物に囲まれた長方形の敷地に、玉石、敷石、白砂、コケ類を用いて雲のような形を描き出し、8つの青石を直線的に据える。



提供：芦屋市

「石材などを取り扱う商人であった高原重太郎が、明治末期に自邸に整備した池泉庭園」

3 旧高原氏庭園【兵庫県加西市】

石材などを取り扱う商人であった高原重太郎が、明治末期に自邸に整備した池泉庭園。山裾の地形を利用した上下二段からなり、上段には「奥座敷」、流れ、園池が、下段には「中座敷」と園池が設けられ、園内に打たれた飛石が上段と下段をつなぐ。



提供：加西市

「大穴の開いた岩峰と中腹が赤く染まった岩峰から成る景勝地」

4 ウトノアナ・ゼゼノサマ【大分県豊後高田市】

くにさき たしぶひらの
国東半島の田染平野に所在し、古くから集落

の境を成してきた岩峰群で、大穴の開いたウトノアナ（洞ノ穴）と中腹が赤色に染まった岩峰のゼゼノサマ（善神王ノ様）から成り、古代、中世、近世にわたる信仰などと結び付いた風致景観として意義深い。



提供：豊後高田市

「寺院境内に開口部があり、内部に高さ約13mの「大広間」と呼ばれる空間を持つ鍾乳洞」

5 金武鍾乳洞（日秀洞）【沖縄県国頭郡金武町】

5つの洞穴からなる洞穴群の1つで、16世紀前半に創建された観音寺の境内に開口部の1つがある。東西約40m、南北約40m、高さ最大約13mの「大広間」と呼ばれる空間を持ち、古くから人々に知られ、景勝地としても広く認識されるようになった。



提供：金武町

《重要文化的景観の新選定》

「近世に磁器を庶民に普及させた肥前の窯業集落と共に発展した農業集落」

1 波佐見中尾皿山と鬼木棚田の文化的景観【長崎県東彼杵郡波佐見町】

肥前において、近世に大量生産により磁器を普及させた窯業集落と、同時期に棚田を拡大させた隣接する農業集落から成る。窯業とこれに伴う住まいの変遷、伝統的な水利の仕組みを持つ棚田と農家の住まいのあり方、両集落の互恵的関係を伝える。



提供：波佐見町